

燦々

SANSAN
光り輝く



令和4年度新規就農者激励会開催
地域農業の担い手たちが就農を果す

令和4年度 新規就農者

JAとまこまい広域広報誌
燦々光り輝く
No.238



編集・発行

〒059-1693
JAとまこまい広域本所
TEL 0145-272241 FAX 0145-273041
北海道厚岸郡厚真町錦町10番地2

令和4年7月10日
ホームページアドレス
http://www.ja-tomakomai.co.jp
メールアドレス
info@ja-tomakomai.co.jp

印刷
株式会社 須田製版

熱中症警戒アラート 発表時の予防行動



普段以上に「熱中症予防行動」を実践しましょう

- のどが渇く前にこまめに水分補給しましょう。(1日あたり1.2Lが目安)
- 涼しい服装にしましょう。



- 屋外で人と十分な距離(2メートル以上)を確保できる場合は適宜マスクをはずしましょう。



外での運動は、原則、中止/延期をしましょう

- 身の回りの暑さ指数(WBGT)に応じて屋外やエアコン等が設置されていない屋内での運動は、原則、中止や延期をしましょう。



暑さ指数(WBGT)を確認しましょう

- 身の回りの暑さ指数(WBGT)を行動の目安にしましょう。
- 暑さ指数は時間帯や場所によって大きく異なるため、身の回りの暑さ指数を環境省熱中症予防情報サイトや各現場で測定して確認しましょう。

※環境省熱中症予防情報サイト：<https://www.wbgt.env.go.jp/>



熱中症とは

熱中症とは、暑い環境で体温の調整ができなくなった状態で、めまいや吐き気、頭痛、失神等様々な症状をきたし、最悪の場合は死に至る疾患です。誰でもなる可能性があり、運動中だけでなく、室内でも起こります。日頃からしっかり予防するようにしましょう。

暑さ指数(WBGT)とは

暑さ指数(WBGT)とは、気温、湿度、輻射熱(日差し等)からなる熱中症の危険性を示す指標で、「危険」「嚴重警戒」「警戒」「注意」「ほぼ安全」の5段階があります。段階ごとに熱中症を予防するための生活や運動の目安が示されていますので、日常生活の参考にしましょう。

「熱中症警戒アラート」は環境省のLINE公式アカウントで確認することができます。

友達追加はこちら →



令和4年度

新規就農者紹介

令和4年度新規就農者激励会開催
地域農業の担い手たちが就農を果す

- ①農業を志した理由
- ②どのような農業をしていきたいですか
- ③趣味や特技を教えてください
- ④五年後の自分に向けて一言、今後の抱負



なかにし ゆきひと
中西 幸仁さん(52)
【早来支所】経営主:中西幸仁
(前経営者:父の幸夫)
経営体:肉牛

- ①畜産の魅力、やりがいを感じたため。
- ②畜産及び畑作にも参入していきたい。
- ③物づくり。
- ④前進あるのみ!!



こばやし ひろかず
小林 広和さん(38)
【厚真支所】経営主:新規参入
経営体:イチゴ

- ①食の安心安全に興味を持ったこと、いつまでも働ける仕事だったため。
- ②一流のイチゴ農家と呼ばれ、その上しっかりと稼ぐことができる農業
- ③散髪すること(元美容師のため)
- ④地域一番のイチゴ農家ですか? 頑張ってください。



おりさか けんせい
折坂 拳聖さん(21)
【厚真支所】経営主:折坂泰宏
経営体:稲作・畑作・花卉

- ①今まで受け継がれてきた土地や技術を守っていききたいと思ったから。
- ②安心して安全な高品質な作物を生産できる農業
- ③毎日ぐっすり眠れるのが特技です。
- ④健康ですか?



はせがわきよこ
長谷川聖子さん(37)
【追分支所】経営主:新規参入
経営体:メロン

- ①定年がなく、子どもと過ごす時間を少しでも長く確保したかったため。
- ②夫と共に楽しく、追及し合って高みを求める農業をしていきたいです。
- ③趣味:旅行、特技:電卓早打ちとお札の勘定(元銀行員のため)
- ④体中ボロボロになっていないかい?



いしばし りょうた
石橋 亮汰さん(25)
【厚真支所】経営主:石橋公昭
経営体:稲作・畑作・野菜

- ①身近に農業があったから。
- ②新しいことを積極的に取り入れたい。
- ③野球観戦。
- ④ちゃんとやれよ!!



どうがし けんと
藤樫 健人さん(18)
【厚真支所】経営主:藤樫一男
経営体:畑作・野菜

- ①祖父が守ってきた農地を絶やすことはできないと思ったから。
- ②祖父が実践してきたことを受け継ぎたい。
- ③車や機械をいじること、最近は筋トレにハマっている。
- ④賞を受賞できるようにがんばりたい。



▲宮田組合長から激励状が手渡される様子



▲新規就農者へ宮田組合長からの挨拶



▲就農するに当たって一言

JAとまこまい広域は6月8日、本所のある厚真町で令和4年度新規就農者激励会を開催した。この激励会は北海道農業・農村を担う一員として、新規就農者が英智と努力をもって農業に意欲的に取り組むことを期待して、JAGグループ4連及び全共連から記念品の書籍や苗木等に添えて激励状が贈られる。激励会に併せて同JAからも、営農を始めるに当たり必需品となるワークウェアのオーバーオール(ツナギ)が贈呈された。

今年は、早来地区・追分地区・厚真地区から計6名の新規就農者が新たな仲間に加わり、平成15年の第1回から数えて延べ180名が同JA管内に就農を果した。

開催に当たり宮田広幸組合長は「農業者が激減する中、若い力が加わり地域農業を担っていく事は大きな喜びであり期待するところです。今後営農していく中で様々な疑問や質問、不安が出てくると思います。皆さんの隣には農協があるので何でも相談して下さい」と挨拶した。また新規就農者がそれぞれ抱負を述べる中、Uターンで就農する折坂拳聖さん(21歳)は「祖父や父の営農に劣らない農業をしていきたい」と抱負を述べた。

激励会終了後には、JA北海道中央会札幌支所の五十嵐陽(25歳)職員を講師に招き、「JAの成り立ちと役割について・組合員組織活動の必要性」と題し講習会を実施し、基本的なJAの仕組みや各連合会の役割などが紹介された。

燦々

SANSAN 光り輝く

No.238 CONTENTS

- 01 特集 令和4年度新規就農者激励会開催
地域農業の担い手たちが就農を果す
- 03 カメラレポート
- 07 設立20周年を祝い記念式典開催
- 09 理事会報告
- 10 期待の農力 西川泰洋さん
- 11 ワンポイント営農情報
- 12 あくり講座
- 13 JAからのお知らせ
- 14 林修先生と学ぶ「国消国産」講座 Lesson1

裏表紙 熱中症警戒アラート発表時の予防行動



6月8日、厚真町にある本所会議室で令和4年度新規就農者激励会が開かれ、就農を果す6名。



広域

出穂期以降の管理学ぶ

第2回麦の青空教室開催

J Aとまこまい広域は5月30日、第2回麦の青空教室(圃場巡回)を開催し、同J A管内の4地区を1日かけて巡回した。各支所生産者など36名が参加し、今後の管理や注意事項など学んだ。4月に行った第1回の青空教室では、起生期から幼形期・止葉期までの莖数別追肥形態のほか、防除ローテーションの説明が行われ、第2回の青空教室では、赤かび病や赤さび病、なまぐさ黒穂病に対する防除や対策方法が胆振改良普及センターの担当者から報告された。特に、赤かび病防除は1回目のタイミングが大



▲むかわ町穂別地区での青空教室の様子



▲穂の生育の様子

切で穂全体に薬剤が付着することが重要であるため、圃場内の穂が出揃った開花始めを見極めて防除を行うほか、防除薬剤散布のローテーションの例を挙げ指導を受けた。

近年北海道内で散見され始めた「なまぐさ黒穂病」は、東胆振地区では発生の確認はされていないと前置きしながらも、罹病粒が施設内に混入すると他の健全粒に異臭がうつり被害を及ぼすと報告を受けたほか、土壌感染するため移動する際の注意喚起が行われた。発生の確認や疑わしい症状が見られた場合はJ Aや普及センターに連絡していただいと付け加えられた。

広域

労力削減図る

水稲ラジコンボートで除草剤散布終盤迎える

J Aとまこまい広域は5月20日から田植えが終わった水田から順次ラジコンボートによる除草剤散布が始まり、初日は厚真町幌内地区の木戸正人さん(56歳)の水田約15haへ散布された。

ボートでの散布は、リモコンで行っため水田に入ることなく作業することができ、従来の重い散粒機を背負わずに散布できるため労働力削減に繋がる。平均速度10km/15kmで田面上を走行するこ



▲職員による散布(厚真町)



▲田面上を走行するラジコンボート

とで散布時間の短縮効果も大きい。また、船底から水中に直接散布するため強風や雨の日など天候不順時でも実施でき効率よく作業が行える特徴がある。

散布はJ A職員2名体制で行われ、今年13件の組合員から委託を受け約160haの水田へ3週間かけて散布を実施し無事に終了した。担当した職員は「良質米を収穫するにはこの初期段階での防除は必要不可欠なので、責任感を持って作業に取り組んだ」と話した。6月下旬からは無人ヘリでの防除も開始される予定だ。

白老

ガーデニング講習会開催

J Aとまこまい広域女性部白老支部

6月3日(金)、J Aとまこまい広域女性部白老支部はガーデニング講習会を開催した。

前日まで雨天予報だったが講習会開催中は晴天に恵まれ、部員11名全員が参加することができた。

今回講師を務めた女性部員でもある平野富士江さんは「花の特徴や選び方を最初から最後まで説明すると、どうしても時間がかかってしまいます。今回は慣習に囚われず好きな花を選んでもらって、個性豊かなアレンジをしてほしいと考えていました。なにより楽しく取り組んでもらうことが一番大切だと思うので、部員のみなが楽しんでいただけたのであれば何よりです」と話してくれた。



▲完成した作品と女性部白老支部の方々



▲講師を務めた部員の平野さん。寄せ植えの様子



▲土づくりの様子

参加した部員からも「たくさんのお花が並んでいて選ぶのが大変でしたが、楽しい講習会でした。また来年も機会があれば参加したいです」と好評だった。

講習会を企画した白老支部長の竹田照美さんは「部員の参加率も高く、講習会内容も好評だったので来年も開催したいと考えています。今回は平野さんと事務局に花と鉢を用意してもらいましたが、次回の開催ではそれも皆で持ち寄るようにしてもいいかもしれません。その方が個性の際立った作品が多くなりそうです。今回の講習会のようにできるだけ部員同士が交流できる場を設けていきたいと考えています」と話してくれた。

講習会で出来上がった作品や使いきれなかった花は皆でそれぞれ持ち帰ることになった。今夏、農場や自宅周辺で彩豊かな花が風に揺れている光景を見るのが今から楽しみだ。

厚真

玉串奉納し出来秋を願う

第43回厚真支所農業まつり豊稈祈願祭

J Aとまこまい広域厚真支所は6月23日、厚真神社で第43回厚真支所農業まつり豊稈祈願祭を開催した。J A役員をはじめ、行政や農業関係者ら27名が出席し出来秋を願い玉串を奉納した。本来であれば、あつま田舎まつりの本祭に合わせ執り行われているが、今年も同時開催は叶わなかった。しかし、第50回のメモリアルを迎えるあつま田舎まつりは、例年より遅い開催となるが7月30日・31日に行われる予定だ。

祈願祭主催者を代表して宮田広幸組合長は「今年は雪が多く水不足の心配をし



▲宮田組合長による玉串奉納



▲祝詞奏上の様子

ていなかっただが、結果的に例年にない程に水が不足しました。代掻きなど苦勞したことだろうと思います。J Aとしても組合員の所得に繋がるようにさらなる努力していきたい」と挨拶した。

来賓を代表して宮坂尚市朗厚真町長は「農業情勢を取り巻く厳しい環境が地域の実情に沿ったものになることを期待しております。J Aと行政、農業関係機関の力を合わせて食料安全保障を担う農業者の未来を切り開く年になると思いますので、宮田組合長をはじめ農業関係団体のさらなる結束が深められますようにお願い致します」と祝辞を述べ祈願祭は終了した。

厚真

出荷規格説明会実施し品質統一図る

厚真産ハスカップ初出荷・初セリ迎える



▲出荷規格説明会の様子



▲完熟ハスカップ

JAとまこまい広域の厚真町ハスカップ部会（長谷誠良部会長）は6月23日、厚真産ハスカップの初出荷を迎え、翌24日苫小牧市公設地方卸売市場の丸一苫小牧中央青果棟で初セリが行われた。20戸の生産者から169ケースが出荷され、最上級規格の特A大1パック（300g）の最高値が2,000円（昨年1,500円）の値が付き、総額は60万円を超えて取引され幸先の良いスタートを切った。

厚真町は日本一の栽培面積を誇るハスカップの産地で、他産地とは違い生食用での出荷が盛んな地域。酸味が特徴のハ



▲長谷会長の初セリ挨拶

スカップはもとより甘さが魅力の「ゆっしげ」と「あつまみらい」を出荷しており、この商品種は同町でのみ栽培が許可されている。糖度12度以上と特A大（最上級規格）のみの出荷と基準を設けるなど、一味違うハスカップを提供している。

初出荷の数日前には生産者60名程が出席し、厚真町宇隆にある山口善紀副部会長のほ場で出荷規格説明会を開催し規格統一を図るなど品質に関しても一級品。

JA担当者は「昨シーズンの大雪の影響を受けハスカップの枝が折れたことで、1つの成木から収穫される果実の数は少なくなるが、1果重は大粒で食べ応えのあるハスカップが提供できるので多くの皆さんに食べてもらいたい」と話した。厚真町ハスカップ部会では、生産者103戸で19.1haを栽培し今年の出荷量は13tを見込んでいる。

穂別

ほべつカンロ「ともりん」初出荷・初競り

苫小牧市場の初競りで高値1万5千円

むかわ町穂別地区のオリジナルブランド、ほべつカンロ「ともりん」が6月2日に穂別支所選果場にて初出荷を迎えた。今年、ほべつカンロ生産部会の小林朋導部会長、中村由美さん、山中光治さんが初出荷を飾った。

翌日6月3日には苫小牧市公設地方卸売市場にて初競りが行われ、秀品3Lサイズ9箱（8kg/箱）、2Lサイズ6箱をはじめ計30箱が競りにかけられた。そのうち秀品4Lサイズ2箱にそれぞれ1万5千円の高値がついた。

初出荷を飾った中村さんは「今年は天候が良かった。花の受粉と実が肥大する

時期に晴天

が続いたた

め糖度が高

く十分な甘

さを持った

良いものが

できた。多

くの人の食

べてもらい

食卓が明る

くなれば」

と話す。

ほべつカ

ンロ生産部



▲苫小牧市公設地方卸売市場の競りの様子



▲「ともりん」を初出荷した小林部会長（右）と中村さん（左）



▲初競りに掛けられるほべつカンロ

会では、本年度18戸の部会員によって、およそ3ha作付し、約109tの出荷数量を見込んでおり、6月下旬〜7月上旬にピークを迎え10月上旬まで出荷が続く予定だ。

追分

糖度15%上出来の仕上がりに

追分カンロ初出荷・初競り

5月25日、安平町追分特産である追分カンロが初出荷を迎えた。今年最初の出荷となったのは、鎌野太地さんで初出荷のカンロは「小林香瓜」4箱となった。「今年は降雪が多く除雪作業などで苦労もあったが、雪溶けも早く、天候が良かったため順調に育ってくれた。糖度も15%と甘い仕上がりになり、良い出来のカンロを出荷できた」と鎌野さんは笑顔で話してくれた。

カンロ組合の友広博組合長は「降雪が多く苦労したが、無事初出荷を迎えられ



▲初出荷を迎えた鎌野太地さん

て嬉しい。これからも、お客様に美味しいカンロを提供していきたい」と話してくれた。

翌日、札幌みらい中央青果で行われた初競りでは、2L（12〜13玉入り）のカンロが最高1万円の価格をつけ、今回出荷された4箱合計で3万1320円（税込み）となった。

今年、追分カンロ組合では、生産者5戸で3.40haを栽培し、9月中旬までに8,000箱を出荷する予定で、販売額はおよそ2千4百万円を目指す。



▲初出荷となったカンロ

穂別

ほべつメロン初出荷・初競り

むかわ町穂別地区特産物「ほべつメロン」初出荷

むかわ町穂別地区の特産物「ほべつメロン」が6月10日よりJAとまこまい広域穂別支所選果場にて初出荷を迎えた。今年、ほべつメロン生産部会（深谷孝部会長）の石崎憲一さんが初出荷を飾った。

翌11日には札幌みらい中央青果にて初競りが行われ、秀品4玉6箱（8kg/箱）、5玉33箱など計60箱が競りにかけられ、秀品5玉1箱が最高15万円の値で競り落とされた。

初出荷にあたり石崎さんは「風が強い日が多く、管理に気を遣ったが、玉まわりは大玉で、糖度も16.6度と上々の出

来て安心

しております

ます。美

味しいメ

ロンを消

費者に味

わっても

らい、北

海道の初

夏の香り

を楽しん

でくださ

いと話



▲札幌みらい中央青果で行われた初競り



▲検査員が初出荷されたメロンを検査している様子



▲初出荷された「ほべつメロン」

ほべつメロン生産部会では、本年度25戸の部会員によって、およそ16haを作付け、約225tの出荷数量を見込んでおり、7月中旬に出荷のピークを向かえ、8月中旬まで出荷が続く。



20年の歩みDVDを上映



百年農場の表彰式の様子



震災木で作られた百年記念農場の楯



震災時の写真パネル展示



宮田組合長の式辞

う、新たな認識と自覚のもとに飛躍を決意します」と式辞を述べた。また来賓の宮坂尚市朗厚真町長をはじめ、谷内浩史胆振総合振興局長、日胆管内農協組合長会の仲山浩会長（JAびらとり組合長）、地元選出の山岡達丸衆議院議員から祝辞が述べられた。

この中で山岡衆議院議員は現在の農業を取り巻く政治的情勢に触れ「北海道の農業を一番に考えて参ります」と述べたほか、日本国内での食料確保を高めていくことの大切さを話した。

また式典では、同JA管内に入植し同一家系で100年以上にわたり営農を続ける「百年農場」に対して表彰式が行われた。この表彰は、地域の模範となる経営者と家族の功績をたたえることを目的として、受賞者114戸を代表して(株)渡部農場(厚真地区)が宮田組合長より震災木で作られた楯が手渡された。渡部大樹専務取締役は「自然との共生の中、時代と農業の変化を受け止めながら地域農業はもとより、JAとまこまい広域の発展に継続の力を持って挑戦します」と力強い謝辞を述べた。

最後に、20周年の歩みの映像を振り返るとともに、映像のナレーターを務めた森結有花アナウンサーと震災時にコンサートを開くなど被災者を癒してくれた半崎美子さんからお祝いメッセージが届けられ式典は終了した。

JAとまこまい広域は6月14日、厚真町本郷にあるあつまスタードームで設立20周年記念式典を執り行い、20年の歩みとこれからのさらなる飛躍に向けた決意を新たにした。組合員をはじめ各市町の首長や胆振管内のJA組合長、農業団体などの関係機関から約200名が一堂に会し20周年を祝った。

同JAは平成13年2月に6JA（1市5町）が合併し「地域農業の継続的な生産維持と都市と農村が共生する地域社会に貢献する協同事業体」をスローガンにスタートが切られた。本来であれば昨年式典を開催する予定だったが、コロナ禍の影響を鑑み今年の開催へ変更した。

式典開催に当たり宮田広幸組合長は「20周年の節目を迎えるにあたり、胆振東部地震で無念の中に亡くなられた方、この地を離れた方のために更なる復興を誓い9月6日を防災の日に定め、この教訓を後世に『協同の絆』として記録を残すとともに亡くなられた方々へ改めてご冥福をお祈りします」と話したほか、「地域にとつてなくてはならない」JAとまこまい広域を未来につなげるよ



設立20周年を祝い記念式典開催

さんさんかがや
期待の農力



祖父にも負けない牛を



にしかわ やすひろ
西川 泰洋さん(28歳) 安平町早来遠浅

就農のきっかけ

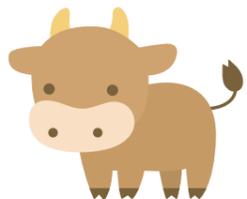
最初から畜産業を継ぐという気持ちがあったわけではなかったという泰洋さん。しかし、腰を怪我してしまい仕事を辞めざるを得なくなりました。そのため、自宅療養期間中に就職先を探していたところ祖父が突然「体力的に続けていくことが難しくなってきた

たほか、現在は青年部早来支部の副支部長を務めている。

農業のやりがいと目標

泰洋さんは祖父から大歓迎されて始まった畜産業だったが、何から何まで初めてだったので思うように飼育管理ができず、品質の良い牛を育てることが出来なかった」と話す表情から当時の辛さが伝わってきた。また現在では「少しずつではあるが以前よりも品質の良い牛を生産できるようになってきてやりがいを感じるようになってきた」と話してくれた。

現在は将来的には牛舎など新たに建設し頭数も比例して増頭していきたいと話すほか、「祖父に負けない高品質な牛を飼育することが最終的な目標と話してくれた。



理事会報告

令和4年5月10日(火)に総合営農センターで第5回理事会が開催され、次の事項について報告、承認がされました。



- | | |
|-----------------------------|---|
| 1. 一般報告と当面する諸行事について | 10. 経営定期点検の結果について |
| 2. 3月末財務報告について | 11. 経営定期点検3年度改善事項の対応状況について |
| 3. 組合員の異動について | 12. 職制規程の業務分掌表及び職務権限表の変更について |
| 4. 固定資産の取得、処分について | 13. JA北海道中央会と厚真町とのコラボ植樹祭について |
| 5. 令和4年度給与改定について | 14. JAバンク経営戦略シートの策定について |
| 6. 定期(決算)監事監査の意見に対する回答について | 15. 水田活用直接交付金の見直しに係わる農家聞き取り調査結果(中間報告)について |
| 7. 穂別活性化基金の運用について | 16. 令和4年度水稲作付け意向調査及び非主食用米配分について |
| 8. 令和4年度共済推進要領について | |
| 9. 支所の日と固定資産確認・車両管理点検実施について | |



- 議案第1号 定期(決算)監事監査の回答について
 議案第2号 行政庁に対する業務報告書の提出について
 議案第3号 令和4年度ディスクロージャー誌策定について
 議案第4号 個人情報取扱規程の変更について
 議案第5号 出資の減口と譲渡について
 議案第6号 百年農場の表彰者について
 議案第7号 20周年記念事業について
 議案第8号 理事への貸付について
 議案第9号 理事へのリース貸付について



令和4年6月7日(火)に総合営農センターで第6回理事会が開催され、次の事項について報告、協議がされました。



- | | |
|--|----------------------------------|
| 1. 一般報告と当面する諸行事について | 10. 内部監査の結果について |
| 2. 4月末財務報告について | 11. 令和4年度産米穀の出荷契約について |
| 3. 6月1日現在の農作物生育状況報告について | 12. 令和3年度北海道米(うるち米)啓発普及事業報告について |
| 4. 組合員の異動について | 13. 令和4年度産地生産基盤パワーアップ事業の取組について |
| 5. 第1四半期余裕金の運用報告について | 14. 令和4年度家畜共励会・枝肉共励会の予定について |
| 6. コンプライアンス委員会報告について | 15. 令和4年肥料年度(令和5年営農年度用)取扱い要領について |
| 7. 事業与信先評価基準・点数表の一部変更について | 16. 振込手数料の改定について |
| 8. JAバンク基本方針に基づく「体制整備モニタリング結果」について | 17. 旧苫小牧支所用地売却交渉の経過について |
| 9. JAバンク基本方針に基づく「経営管理資料」のうち全中及び農林中金が定める事項の報告について | 18. 地域振興検討委員会の開催結果について |



1. 持続可能な北海道農業の確立に関する組織討議意見集約について(北海道基本農政、米及び水田農業政策、畑作青果制作、酪農畜産制作)
 2. 組合員との対話運動の展開要領について
 3. 厚真地区道営圃場整備事業上鹿沼第1区地区換地委員会委員の選任について

さんさん あぐり講座

胆振農業改良普及センター東胆振支所

ケイ酸の 効果について

540kg/10aの水稲生産に必要なケイ酸は約100kg/10aとされています。灌がい水や土壌からの供給が約40kg/10aあり、残りの60kg/10aはケイ酸資材施用で継続的に補給する必要があります。

○ケイ酸の効果

1 収量増加とタンパク含有率の低下

ケイ酸を十分に吸収すると、受光態勢の改善、下位葉の枯れ上がりの減少、根の活力向上、水利用効率の向上などの効果があります。これらの効果により、光合成が促進され、窒素利用率が高まり(1 籾生産するのに必要な窒素量が少なくてすむ)、玄米中の窒素比率が低下することでタンパク含有率が低下します。また、退化籾の減少や登熟歩合が向上し、総籾数が増加します。

2 倒伏軽減

稈の強度が高まり、耐倒伏性が向上します。

3 耐冷性・耐病性の向上

葯が伸長し充実した花粉の量が多くなり、低温年においても不稔発生を軽減します。また、ケイ酸含有率の上昇にともない、葉鞘褐変病やいもち病の被害を軽減します。



写真 ケイ酸投入による稲の形態変化
(右:融雪材でケイカル
100kg/10a+追肥 20kg/10a
左:融雪材でケイカル
40kg/10a)

○ケイ酸資材の施用時期と施用量の目安

ケイ酸資材として一般的なケイカルについては、以下の施用時期が有効です。

1 基肥施用

融雪を兼ねて施用します。施用量は土壌分析値に基づいて下表を参考に決定します。融雪水と一緒に流亡することはありません。また、アルカリ分も含むケイカルは、秋の稲わらすき込み時に施用することで、稲わらの分解を促進します。

表 ケイ酸土壌分析値に基づく資材施用量(北海道施肥ガイド 2020)

ケイ酸含量 (mg/100g)	極低い 0~10	低い 10~13	やや低い 13~16	基準値 16~
施用量 (ケイカルkg/10a)	180~240	120~180	60~120	0~60

2 追肥施用

ケイ酸吸収量は幼穂形成期以降に著しく増加します。よって、幼穂形成期1週間後(中苗ななつぼし(東胆振作況調査)の幼穂形成期平年値が7/7頃であるため追肥時期は7/14前後)にケイカル20kg/10aを追肥することで最も効率よく吸収させることが可能です。

※ケイ酸資材は様々な種類があるため、各資材の特徴に併せて施用時期・量を検討しましょう。

ワンポイント営農情報

2022年 農薬・肥料試験概要

本年度、クリーン農業係がサポートする各種試験事業の取組み概要を紹介致します。肥料の肥効調節型の効果や農薬の効果などを試験・調査致します。

●水稲除草剤試験(初中期剤)

試験課題	初中期除草剤省力化技術の実用性確認 除草剤散布時期…代かき後14日目の施用
------	--

●水稲、殺虫剤新規箱処理剤の効果確認

試験課題	新規水稲箱処理剤(ヨーバルキング)によるイネドロオウムシに対する効果を確認する。 対象薬剤:バズ顆粒水和剤
------	--

●大豆、既存除草剤併用による効果確認(R3継続)

試験課題	一年生雑草に対する既存除草剤の併用(フルミオWDG+デュアルゴールド)効果確認。 対象薬剤:ラクサー乳剤
------	---

●秋まき小麦、新規除草剤の効果確認

試験課題	大豆間作麦における越冬前のイネ科雑草の抑制効果検証。 ガルシア・トレファンサイドそれぞれの効果検証
------	--

●南瓜、肥効調節型肥料の効果確認

試験課題	追肥作業の低減と地域に適した緩効性タイプ(緩行効果)の検討。ウレアホルム入肥料全層施用。 対象:慣行施肥
------	---

●ブロッコリー、干ばつ時の乾燥抑制剤効果試験

試験課題	バイオスティミュラント(植物活性剤)利用による高温・乾燥に対する耐性の効果確認。
------	--

本年度の試験結果につきましては、各振興会・部会総会にて詳細を発表致します。併せて、令和5年3月頃、JAホームページ「組合員専用」のページでも紹介致します。

シリーズNO.30 おいしい米づくり

～水稲主要病害虫対策について～

1 昨年の主要病害虫の発生状況

- (1) いもち病
葉いもちの感染好適条件発生が7月に入り、感染拡大の時期も少雨傾向となり、葉いもち・穂いもちとも発生は遅く、少発生だった。
- (2) アカヒゲホソミドリカスミカメ
越冬密度が高く、初期の水田への飛込みは多めであったが、出穂後の多雨傾向によりその後の発生が抑制された。
- (3) 紋枯症状
紋枯病は、7月中旬以降降雨が少なく、初発時期は平年並で発生は少なかった。



収穫前の紋枯症状発生株

2 今年の病害虫対応

- (1) いもち病
葉いもち防除は、出穂までに病斑を見つけた場合に実施する。穂いもち防除は、基幹防除を出穂期に実施する。
- (2) アカヒゲホソミドリカスミカメ
斑点米発生直前(出穂後7日~10日)に斑点米防止効果の高い薬剤による防除で、効率防除が可能である。ただし、出穂後30日までに、圃場内でカメムシが捕虫される場合は追加防除が必要である。
- (3) 紋枯症状
H27~29の調査で、胆振では紋枯病より疑似紋枯病の発生が主体となっており、発病が進むと被害となりやすい赤色菌核病が半分程度を占めている。秋の止葉葉鞘の紋枯症状を確認し、翌年の防除計画を立てる。

林修先生と学ぶ「国消国産」講座

Lesson 1

日本で食べるものは、日本で作る 「国消国産」をいっしょに考えよう

生きるために欠かせない食料は、日本で作ったほうが安心

なぜ今?
国消国産

新型コロナウイルスの感染が広がり始めたとき、マスク不足が大きな問題になりました。もしこれが食料だったら、どうなっていたでしょうか。いざという時、マスクのような工業製品は急いで作れますが、農地を耕し、自然と調和しながら、長い年月をかけて育まれる農畜産物は、不足したからといってすぐに作れるわけではありません。



JAグループサポーター・林修

日本の「食」をとりまく5つのリスク

- 食料自給率の低迷**
食料の多くを輸入に頼り続けている
- 農業生産基盤の弱体化**
農家の減少と高齢化、農地の減少が進む
- 自然災害の多発**
世界と日本の農業が多くの災害に直撃される
- 世界的な人口増加**
世界の人口増加で食料不足が懸念される
- 国際化の進展**
輸入増加で食料自給率低下の可能性がある

日本の「食」は今さまざまなリスクに直面

今、日本の食料自給率は38%です。つまり食料の約6割を輸入に頼っているのです。その大きな要因は、農家の減少や高齢化など、生産基盤の弱体化です。さらに、日本も含めた世界中で自然災害が多発しています。もし、日本が多くの食料を輸入している国で自然災害などが発生し、食料生産が大幅に減少したら、日本の食生活にも多大な影響を及ぼしかねませんが、食料の輸入は増加しているのです。さらに、今後も世界的な人口増加が予測される中、日本ではこれから先ずっと、食料を輸入し続けられるのかという懸念もあります。このように、日本の「食」は、多くのリスクに直面しているのです。

※カローリーベース 2019年 農林水産省による

だから今!
国消国産

「国消国産」で、「食」の安心を次の世代に

そのようなリスクにさらされている中で、JAグループは、「国」民が必要とし「消」費する食料は、できるだけその「国」で生「産」する、「国消国産」という考え方を提起しました。私たちの毎日の「食」の安心はもちろん、子どもや孫たちの世代にまで、この日本という土地で豊かな実りが絶えることのないように、おいしい食卓を囲む笑顔が絶えることのないように、「国消国産」は、日本の「食」のこれからにとって、大きな意義をもっています。



耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ

JA 日誌

2022 7月

- 16日(土) 胆振JA役員野球大会(伊達)
- 17日(日)
- 18日(月)
- 19日(火)
- 20日(水) 第7回理事会(苫小牧・白老)
- 21日(木) 2022胆振産共進会・黒毛和種の部(北海道ホルスタイン共進会場)
- 22日(金)
- 23日(土) 第39回むかわ町種別流送まつり(1日開催)
- 24日(日)
- 25日(月)
- 26日(火) 北の大地ユースサッカー大会(～8/19・苫小牧・厚真)
- 27日(水) JA共済日胆地区推進委員会(苫小牧)
- 28日(木)
- 29日(金)
- 30日(土) あつま田舎まつり～31日
- 31日(日)

2022 8月

- 1日(月) 第2四半期決算棚卸
- 2日(火)
- 3日(水) ホクレン肉牛市場
- 4日(木)
- 5日(金) ホクレン乳牛市場、とまこまい港まつり～7日
- 6日(土) 白老牛農産物フェア、種別支所生産者交流会
- 7日(日)
- 8日(月)
- 9日(火) 第8回理事会、ホクレンとの意見交換会
- 10日(水)
- 11日(木)
- 12日(金)
- 13日(土)
- 14日(日)
- 15日(月)

20周年の歩みDVD希望者募集

当組合は昨年度設立20周年を迎え、令和4年6月14日にあつまスタードームにて設立20周年記念式典を開催し、式典では設立から20年を振り返るDVDを上映いたしました。DVDに関しては、当組合ホームページへ掲載いたしましたのでご覧いただけます。

また、上映DVDをご希望の方はお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先

- 企画管理部 0145-27-2241
- 白老支所 0144-82-2266 苫小牧支所 0144-84-5117 早来支所 0145-22-2525 厚真支所 0145-27-2694 穂別支所 0145-45-2211 追分支所 0145-25-2525

アクセス方法

- 「JAとまこまい広域」と検索
- URL: <http://www.ja-tomakomaikouiki.com/>

人事異動 依願退職 お疲れ様でした

6月30日付
農産部 小杉 卓馬 平成31年4月1日入組
農産部農産課係を務め退職

お悔やみ 謹んでご冥福をお祈りいたします。

月日	地区	氏名	享年
6/7	厚真町	兵頭 弘信さん	97
6/15	むかわ町	大石 徳男さん	85

ホクレン南北海道黒毛和種市場 広域農協支所別取引成績(6月)

令和4年6月8日

	性別	成立頭数(頭)	価格平均(円)	平均日齢/体重(kg)	平均kg/単価(円)
白老	去勢	34	756,618	1.177	2,204
	雌	26	614,885	1.077	1,869
苫小牧	去勢	2	777,000	1.211	2,337
	雌	4	509,750	1.042	1,646
早来	去勢	41	724,878	1.234	2,077
	雌	16	553,375	1.085	1,648
厚真	去勢	30	733,767	1.209	2,102
	雌	23	576,304	1.070	1,783
穂別	去勢	32	722,281	1.215	2,103
	雌	20	611,500	1.090	1,849
追分	去勢	4	720,750	1.216	2,118
	雌	7	617,143	1.163	1,928
とまこまい広域	去勢	143	734,322	1.210	2,123
	雌	96	590,469	1.084	1,802
胆振管内	去勢	256	728,484	1.202	2,115
	雌	173	588,289	1.067	1,826
市場計	去勢	1,034	690,949	1.160	2,049
	雌	706	562,676	1.031	1,796

※新型コロナウイルスの影響により中止となる場合がありますのでご了承下さい。